

平成 2 4 年度 鳥取県立皆生養護学校 中学部（単一障がい学級）教育課程（A）

1 教育目標 「見つけよう自分の力 伝えよう自分の思い」

- 2 努力点・重点
- ・学習全般にわたって生徒の学力実態の把握に努め、多様な体験的学習を取り入れながら個に応じた学力向上に努める。
 - ・生徒個々に応じて、より主体的な生き方をめざす意欲と態度の育成に努め、自分の考えや思いを伝える力を育てる。

3 年間授業時数等

指導の形態	教科等	努力点						1 年	2 年	3 年
教科別の領域	国 語	・豊かな語彙・表現の方法を身に付けさせることで、自分の考えを自信を持って表現し伝える力を育てる。						1 4 0	1 4 0	1 0 5
	社 会	・社会の様子、働きや移り変わりについて関心を持たせるとともに理解を深めさせて、社会生活に必要な能力や態度を育てる。						1 0 5	1 0 5	1 4 0
	数 学	・指導内容を精選し、基礎的・基本的な内容の定着を図り、数学的な見方・考え方を育てる。						1 4 0	1 0 5	1 4 0
	理 科	・目的意識を持って実験・観察を行うことを重視し、自然に対する関心を高め、科学的に調べる態度や能力を育てる。						1 0 5	1 4 0	1 4 0
	音 楽	・音楽活動を通して表現する技能や意欲を高めるとともに、音楽活動を楽しみ、生活を豊かにしようとする態度を育てる。						4 5	3 5	3 5
	美 術	・創造活動を通して表現する喜びを味わい、自分の思いを主体的に表現する態度と能力を育てる。						4 5	3 5	3 5
	技術・家庭	・基礎的な知識・技能を習得させ、日常生活をより豊かにしようとする態度を育てる。						7 0	7 0	3 5
	保健体育	・生涯を通じて運動に親しみ、健康・体力の保持・増進を図るとともに、健康で安全な生活を送ることができる能力と態度を育てる。						7 0	7 0	7 0
	外国語(英)	・外国語で表現する実践的コミュニケーション能力の基礎を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、言語や文化に対する理解を深める。						1 4 0	1 4 0	1 4 0
	道 徳	・個の実態に応じた資料選択に努め、道徳的価値を内面的に自覚させ、強い意志と支え合い高め合う心情及び態度を育てる。						3 5	3 5	3 5
	自立活動	・生徒個々の自立活動指導計画に即した指導内容と指導方法の工夫に努める。 ・生活全般を通して、指導の充実に努める。						1 8 7	1 8 7	1 8 7
総合的な学習の時間		・興味や関心に基づく主体的な活動を繰り返しひろげる中で、課題意識を持って問題に取り組み、より良く生きようとする態度を育てる。						5 0	7 0	7 0
計								1 1 3 2	1 1 3 2	1 1 3 2
特別活動	学級活動	・指導方法・活動内容の工夫と充実に努め、生徒一人一人の自主的・実践的な態度を育てる。						3 5	3 5	3 5
	学校行事	4 月	着任式 始業式 入学式 身体測定	7 月	終業式	10 月	皆生・ブライト・フェスティバル 避難訓練	1 月	始業式	1 年 ： 3 0
		5 月	校外学習 避難訓練	8 月	始業式	11 月		2 月		2 年 ： 3 1
		6 月	皆生スポレク祭	9 月	宿泊体験学習 修学旅行	12 月	終業式	3 月	卒業式 修了式 離任式	3 年 ： 4 2

- 4 生徒の実態、特性
- ・病名、障がいとしては、脳性麻痺・その他の中枢性運動障がい等である。
 - ・日常生活動作の一部に介助が必要であることや大多数が車椅子での生活であることのために行動が制限され、社会性の乏しい傾向がある。
 - ・障がいの多様化に伴い、個に応じた指導内容の精選と指導方法の工夫が必要である。

5 研究課題：

- 6 特色ある教育活動
- ・学校間交流（近隣の中学校）や地域交流を実施し、多様な交流及び共同学習を通して経験の拡大を図り社会性を育てる。
 - ・将来の生活を考える機会になるように進路指導旬間・宿泊体験学習を実施し、日頃の学習に生かす。
 - ・専門的知識・技能を有する社会人講師の協力を得ながら、生徒個々の実態に応じて必要な学習の機会を保障する。

7 備考

- ・授業日数

月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	1 年生	1 4	2 1	2 1	1 4	3	1 9	2 1	2 2	1 5	1 6	1 9	1 5	2 0 0
	2 年生	1 5	2 1	2 1	1 4	3	1 9	2 1	2 2	1 5	1 6	1 9	1 5	2 0 1
	3 年生	1 5	2 1	2 1	1 4	3	1 9	2 1	2 2	1 5	1 6	1 9	9	1 9 5

- ・授業の 1 単位時間は 4 5 分とする。
- ・給食時間に給食指導を毎日 3 0 分、自立活動として実施する。給食指導の時間は、総計 1 1 7 時間とする。

平成 2 4 年度 鳥取県立皆生養護学校 中学部（単一障がい学級）教育課程（B）

1 教育目標 「見つけよう自分の力 伝えよう自分の思い」

- 2 努力点・重点
- ・多様な体験的活動や問題解決的学習を取り入れた学習の場の工夫により学習意欲を喚起しながら学力向上に努める。
 - ・生徒個々の障がいや能力の実態把握をもとに、個々の学習課題を明確にし、適切な学習内容で個に応じた指導に努める。

3 年間授業時数等

指導の形態		教科等						努 力 点			1 年	2 年	3 年
教科別の領域別の指導	国 語	・社会生活に必要な基礎的・基本的事項の理解を深めるために多様な学習活動を取り入れ、聞く力・表現する力を育てる。									1 0 5	1 0 5	1 0 5
	社 会	・社会の移り変わりについて、重点となる出来事に対して理解と関心を深めさせ、社会生活に必要な能力や資質を育てる。									1 0 5	1 0 5	1 0 5
	数 学	・指導内容を精選し、操作活動を通して基礎的な知識や技能の習得を図り、数学的な見方・考え方を育てる。									1 4 0	1 0 5	1 4 0
	理 科	・実験・観察・体験を通して自然と自分の生活との関わりを考えさせるとともに、自然を愛する心情を育てる。									1 0 5	1 4 0	1 4 0
	音 楽	・音楽活動を通して自己表現能力を高めるとともに、音楽活動を楽しんだり生活に生かしたりする態度を育てる。									4 5	3 5	3 5
	美 術	・創作活動を通して表現する喜びを味わわせるとともに、よさや美しさを感じ取らせ、心豊かな生活を創造していこうとする意欲と態度を育てる。									7 0	7 0	7 0
	技術・家庭	・体験的な学習により日常生活に必要な知識や技能を身につけ、より豊かに生きていこうとする態度を育てる。									7 0	7 0	3 5
	保健体育	・運動に親しみ積極的に活動することにより、健康・体力の保持・増進を図り、健康的な生活習慣を身につけようとする態度を育てる。									7 0	7 0	7 0
	外国語(英)	・異国の言語や文化に対する興味や関心を持ち、英単語や基礎的な会話表現を覚え、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。									1 4 0	1 4 0	1 4 0
	道 徳	・個の実態に応じた資料選択に努め、道徳的価値を内面的に自覚させ、強い意志と支え合い高め合う心情及び態度を育てる。									3 5	3 5	3 5
	自立活動	・生徒個々の自立活動指導計画に即した指導内容と指導方法の工夫に努める。 ・生活全般を通して、指導の充実に努める。									1 8 7	1 8 7	1 8 7
総合的な学習の時間		・興味や関心に基づく主体的な活動を繰り返しひろげる中で、課題意識を持って問題に取り組み、より良く生きようとする態度を育てる。									6 0	7 0	7 0
計											1 1 3 2	1 1 3 2	1 1 3 2
特別活動	学級活動	・指導方法・活動内容の工夫と充実に努め、生徒一人一人の自主的・実践的な態度を育てる。									3 5	3 5	3 5
	学校行事	4月	着任式 始業式 入学式 身体測定	7月	終業式	10月	皆生・ブライト・フェスティバル 避難訓練	1月	始業式	1年 ： 3 0 2年 ： 3 1 3年 ： 4 2			
		5月	校外学習 避難訓練	8月	始業式	11月		2月					
		6月	皆生スポレク祭	9月	宿泊体験学習 修学旅行	12月	終業式	3月	卒業式 修了式 離任式				

- 4 生徒の実態、特性
- ・病名、障がいとしては、脳性麻痺・その他の中枢性運動障がい等である。
 - ・日常生活動作の一部に介助が必要であることや大多数が車椅子での生活であることのために、行動が制限され社会性の乏しい傾向がある。
 - ・下学年適用による個に応じた指導内容の精選と指導方法の工夫が必要である。
 - ・生徒の実態により、各教科の内容の一部を合科による指導を行う場合がある。

5 研究課題：

- 6 特色ある教育活動
- ・学校間交流（近隣の中学校）や地域交流を実施し、多様な交流及び共同学習を通して経験の拡大を図り社会性を育てる。
 - ・将来の生活を考える機会になるように進路指導旬間・宿泊体験学習を実施し、日頃の学習に生かす。

7 備考

・授業日数

月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	1 年生	1 4	2 1	2 1	1 4	3	1 9	2 1	2 2	1 5	1 6	1 9	1 5	2 0 0
	2 年生	1 5	2 1	2 1	1 4	3	1 9	2 1	2 2	1 5	1 6	1 9	1 5	2 0 1
	3 年生	1 5	2 1	2 1	1 4	3	1 9	2 1	2 2	1 5	1 6	1 9	9	1 9 5

- ・授業の 1 単位時間は 4 5 分とする。
- ・給食時間に給食指導を毎日 3 0 分、自立活動として実施する。給食指導の時間は、総計 1 1 7 時間とする。
- ・各教科の目標及び内容を下学年の目標及び内容に全部又は一部に替えたり、一部を合わせたりして（合科による指導）学習を行う。

平成24年度 鳥取県立皆生養護学校 中学部（重複障がい学級）教育課程（案）

- 1 教育目標 「見つけよう自分の力 伝えよう自分の思い」
- 2 努力点・重点
 - 一人一人の将来を見通しながら障がいの実態や発達に応じた適切な個別の課題の設定に取り組む。
 - 個々の生徒の課題と個に応じた支援を職員が共通理解し、一貫した指導が展開できるようにする。
- 3 年間授業時数等

指導の形態	教科等	努 力 点					I 型	II 型	III 型	
教科別 領域別 の 指導	国 語	・指導内容を精選し、多様な学習活動を積み重ねることによって日常生活に必要な国語を理解させ、表現する能力と態度を育てる。					140	0 ～105		
	数 学	・指導内容を精選し、操作活動を通して日常生活に必要な数量や図形などに関する初歩的な理解を深めさせ、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。					140	0 ～105		
	音 楽	・いろいろな音や音楽に興味・関心を持たせながら、歌唱・器楽などの活動を集団でさせることを通して、音楽を楽しむ心情と態度を育てる。					35	35		
	美 術	・創作活動などを通して、表現する力、鑑賞する力、豊かな感受性を育てる。					70	0～70		
	保健体育	・運動や集団で活動する楽しさを味わわせ、健康・体力の増進を図るとともに、集団での活動を通して協調性・社会性を育てる。					70	35		
	道 徳	・基本的な生活習慣を身に付けようとする意欲や態度を養うとともに、自主性、協調性、責任感を育てる。								
	自立活動	・個々の生徒の目標に向けて指導するとともに、新たな課題を見出すなどして生活全般を通して指導の充実に努める。					362	397 ～642	782	
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導	・生徒の体調を観察し、健康・体力の維持向上に努める。 ・日常生活の基本的な習慣を身につけ、集団生活への態度・技能を育てる。						175	175	
	生活単元学習	・友達や物への関わりを促し、自発的に活動しようとする意欲を育てる。 ・体験的な学習活動を通して、日常生活に必要な基本的事柄の知識・技能を身につけさせ、人によりよく関わろうとする心情や態度を育てる。					280	210	140	
	わくわく ワーク	・造形活動を通して、造形表現についての興味や関心を持ち、表現の喜びを味わうようにする。 ・自分の役割を理解し、友達と協力して活動していこうとする態度を育てる。						70		
総合的な学習の時間		・興味や関心に基づく主体的な活動を通して、課題解決に向けた意欲を育てる。 ・主体的な探求活動や、まとめ・発表の活動を通じて他への働きかけの力を伸ばす。					35			
計							1132	1132	1097	
特別活動	学級活動	・指導方法の工夫と活動内容の充実に努め、自主的・実践的な態度を育てる。					35	35	35	
	学校行事	4月	着任式 始業式 入学式 身体測定	7月	終業式	10月	皆生・ブライト・フェスティバル 避難訓練	1月	始業式	1年：30 2年：31 3年：42
		5月	校外学習 避難訓練	8月	始業式	11月		2月		
		6月	皆生スポレク祭、	9月	宿泊体験学習 修学旅行	12月	終業式	3月	卒業式 修了式 離任式	

- 4 生徒の実態、特性
 - 病名・障がいとしては、脳性麻痺・中枢性運動機能障がい等でありコミュニケーションの取りにくい生徒も少なくない。
 - 日常生活動作の全般に介助が必要であることや大多数が車椅子での生活であることのために、行動が制限され社会性の乏しい傾向がある。
 - 全員が知的障がいを併有し、知的障がい教育課程代替や自立活動主体の教育課程による個に応じた指導内容の精選と指導方法の工夫が必要である。

I 型：中程度の知的障がいを有する生徒が多く、知的障がい教育課程の教科学習を中心にした指導が適している。

II 型：重度の知的障がいを有する生徒が多く、個別と小集団での学習を組み合わせることにより、より高い学習効果が期待できる。

III 型：より重度の知的障がいを有する生徒が多く、個々の生徒の課題解決のためには個別を主とした学習形態の方が適している。
- 5 各教科等を合わせた指導

- 生活単元学習 I 型：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動、特別活動
II 型：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動、特別活動
III 型：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動、特別活動
- 日常生活の指導 II 型：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動
III 型：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動
- わくわくワーク II 型：国語、数学、美術、職業・家庭、道徳、自立活動、特別活動

6 研究課題：

7 特色ある教育活動

- 学校間交流（近隣の中学校）や地域交流を実施し、多様な交流及び共同学習を通して経験の拡大を図り社会性を育てる。
- 将来の生活を考える機会になるように進路体験学習・宿泊体験学習を実施し、日頃の学習に生かす。

8 備考

- 授業の1単位時間は45分とする。
- 道徳にあつては、全教科・全領域で指導する。
- 個に応じた指導を重視し授業時間数に幅をもたせ、教科・領域等の時数は生徒の実態を考慮して決定する。なお、年間総授業時数は教育課程毎に全学年同一とする。
- 給食時間に摂食指導を毎日30分、自立活動として実施する。給食指導の時間は、総計117時間とする。
- 授業日数

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日 数	1年生	14	21	21	14	3	19	21	22	15	16	19	15	200
	2年生	15	21	21	14	3	19	21	22	15	16	19	15	201
	3年生	15	21	21	14	3	19	21	22	15	16	19	9	195

平成24年度 鳥取県立皆生養護学校 中学部（訪問学級）教育課程

1 教育目標 「見つけよう自分の力 伝えよう自分の思い」

2 努力点・重点

- ・家庭や医療機関との連携を密にしながら、生徒の実態把握と発達に応じた指導の充実を図る。
- ・個に応じた体験的活動を継続、発展させながら、コミュニケーション能力等社会性の育成を図る。

3 年間授業時数等

指導の形態		教科等		努 力 点						1～3年	
教科別 領域別 の指導	道 徳	・様々な経験を通して、周りの人や物に働きかけようとする意欲や態度を育てる。						3 5 ～2 8 0			
	自立活動	・指導のねらいを明確にし、姿勢・動作・体力等の維持・向上に努める。 ・個々の発達段階を捉えた感覚を引き出す援助やコミュニケーション能力の向上に努める。									
各教科等を 合わせた 指導	日常生活の指導	・日常生活の基本動作や生活リズム、健康状態の維持・安定を図る。						0 ～2 4 5			
	生活単元学習	・生徒の興味関心に基づいた活動を取り入れ、生活経験を豊かにする。 ・人や物へのかかわりを促しながら身体の諸機能の向上を図るとともに、自発的に活動する意欲を育てる。									
計										7 0 ～2 8 0	
特別活動	学校行事	4月	着任式 始業式 入学式 身体測定	7月	終業式	10月	皆生・ブライト・ フェスティバル 避難訓練	1月	始業式	1年 ：6～2 4	
		5月	避難訓練	8月	始業式	11月		2月		2年 ：6～2 5	
		6月	皆生スポレク祭	9月		12月	終業式	3月	卒業式 修了式 離任式	3年 ：6～2 4	

4 生徒の実態、特性

- ・病名・障がいとしては、多様化、重度・重複化の傾向がある。
- ・日常的に医療的ケアや生活全般に介助を要する。
- ・障がいのため行動が制約されている。

5 各教科等を合わせた指導

- ・日常生活の指導：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動
- ・生活単元学習：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳、自立活動、特別活動

6 研究課題：

7 特色ある教育活動

- ・地域の医療機関や行政・福祉機関と密接な連携を取りながら指導にあたる。
- ・体験的活動を大切にし、人や物へかかわる力や自己表出の力の育成に努める。
- ・将来の生活を考える機会になるように進路体験学習・宿泊体験学習を実施し、日頃の学習に生かす。
- ・保護者・家族の意向を尊重し、共通理解を図りながら指導にあたる。

8 備考

- ・授業の1単位時間は45分とし、1回の授業は2単位時間とする。
- ・授業は、生徒の実態に合わせて1週間に4回まで実施する。
- ・道徳にあつては、全教科・全領域で指導する。
- ・個に応じた指導を重視し、必要に応じて授業時間数に幅をもたせる。